

『物流 Weekly』連載原稿

「日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー」第3回

<タイトル> 現場の人間が現場を知る

<本文>

確かにドライバー一人ひとり是不採算になっているのかもしれないが、それは配車をしているK社の責任といっても過言ではない。であれば、「減車対象となるドライバーは、A運送のドライバーである必要はない」ことになる。

そこで、我々は今後のルート再編に当たっては、A運送を中心に再編成することでコストダウンを狙うとともにに配送品質の向上も図ることにした。後日、配車担当者から一番の信頼を得ているA運送のリーダーを交えてミーティングを行なった。

そこで驚くべき情報を得ることができた。A運送のリーダーTさんは、各物流企業の問題点だけではなく、現場レベルでのK社の問題点や改善点を把握していた。「S運送のI君は頼んだ仕事はきちっとしてくれるし、仕事も速い。しかし、そんな一番働く社員に、一番小さな車を乗らせている。以前から非効率だと思っていた。あそこは社内体制に問題があるのではないのでしょうか...」

「K社の 部門の出荷はいつも他に比べて遅い。あそこの積み込みが早くできると他の効率もかなり上がるはずなのですが...」

「あの配送先には毎日配送を行なっているが、先方は荷物を急に必要としていないし、在庫スペースもあります。週2回配送に切り替えることで、配送の効率も向上させることができるはずなのですが...。」

など様々な情報を得ることができた。

(次週に続く)